



理研ビタミン株式会社

証券コード：4526

2022年度 第2四半期 決算説明会

2022年11月24日

1. 2022年度第2四半期業績

2. 2022年度通期の見通し

冨取：皆さんこんにちは。理研ビタミンの冨取と申します。本日は、弊社 2022 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

まず私のほうから、第 2 四半期の業績についてご説明を申し上げます。

価格改定と為替で増収

- ・ 原材料価格高騰を受けた価格改定を進め、全セグメントで売上高が増加
- ・ 連結売上高の増加額50億円のうち、15億円は為替影響

海外事業が利益を牽引

- ・ 海外事業において計画を上回る価格改定を実施し、営業利益が大幅に上振れ
- ・ 増収増益の反面、自社・グループ会社工場全体での生産数量は減少

純利益は大幅に減少

- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は前期の連結除外の影響で大幅に減少
- ・ キャッシュを伴わない利益減であり、営業キャッシュフローはプラス

まず、第2四半期のポイントを3点にまとめております。

一つ目、価格改定と為替で増収でございます。原材料高騰を受けた価格改定を進めました。その結果、全セグメントで売上高が増加をしております。連結売上高増加額 50 億円のうち、15 億円は為替の影響となっております。

二つ目、海外事業が利益を牽引し、海外事業においては計画を上回る価格改定が実現でき、営業利益が大幅に上振れをいたしました。増収増益の反面、グループ会社全体で生産量は減少となっております。

三つ目、純利益は大幅に減少でございます。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期の連結除外による特別利益 120 億円の影響で、大幅に減少をしております。しかしながら、この昨年度の特別利益はキャッシュを伴わない利益でございましたので、営業キャッシュフローについては、プラスで着地をしております。

営業利益・経常利益ともに上期の過去最高を更新

単位：百万円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比		業績予想との比較	
			増減額	増減率	予想(8/10)	差額
売上高	38,603	43,631	+5,028	+13.0%	42,000	+1,631
営業利益	2,396	3,557	+1,160	+48.4%	2,800	+757
営業利益率	6.2%	8.2%	+2.0pt		6.7%	+1.5pt
経常利益	2,518	4,149	+1,631	+64.8%	3,200	+949
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17,162	3,146	▲14,016	▲81.7%	2,500	+646

(連結除外事業を除く)	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比		青島福生食品 (連結除外事業)	
			増減額	増減率	2021年度	2022年度
売上高	38,203	43,631	+5,427	+14.2%	399	-
営業利益	3,051	3,557	+505	+16.6%	▲654	-
営業利益率	8.0%	8.2%	+0.2pt		-	-

第2四半期業績について、ご説明を申し上げます。

上の表が全体の前年度比較、下の表が連結を除外いたしました青島福生食品の赤字決算を除いた比較表でございます。上の表では売上高、営業利益、経常利益まで大幅に増加をしております。営業利益率においても2ポイント上昇いたしまして、8.2ポイントとなっております。

下の表では、赤字であった青島福生食品の決算を切り離した上での比較においても、表のとおり増収増益となっております。

営業利益の要因別増減

理研ビタミン株式会社

*2021年度2Qは連結除外事業の実績を除外しています



5

営業利益の要因別増減につき記載をしております。

こちらの比較については福生食品を除いた比較としております。今年度の増益が5億500万円になっております。増益要因といたしまして、売上高の増加に伴う限界利益がプラス16億円。広告宣伝費の減少でプラス2億円。

一方、減益要因といたしましては、エネルギーコスト等の増加が6億円、物流コストの増加が2億円、その他、一般管理費等の増加で約5億円、合わせまして5億円の増益となっております。

家庭用を除き増収、価格改定を進めた海外事業が利益を牽引

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比		2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
国内食品事業	26,968	28,230	+1,261	+4.7%	2,500 9.3%	2,140 7.6%	▲360 ▲1.7pt	▲14.4%
家庭用食品	6,658	6,368	▲289	▲4.3%	/	/		
業務用食品	9,087	9,416	+329	+3.6%				
加工食品用原料等	11,223	12,445	+1,221	+10.9%				
国内化成品その他事業	3,277	3,492	+214	+6.6%	335 10.2%	77 2.2%	▲258 ▲8.0pt	▲77.0%
海外事業	8,962	12,775	+3,813	+42.6%	▲263 -	1,599 12.5%	+1,863 -	-
海外改良剤	8,562	12,775	+4,213	+49.2%	391	1,599	+1,208	+308.9%
青島福生食品*	399	-	-	-	▲654	-	-	-

*青島福生食品は2021年6月に持分譲渡し、2021年度1Qで連結から除外しました

このページではセグメント別の業績につきご説明を申し上げます。

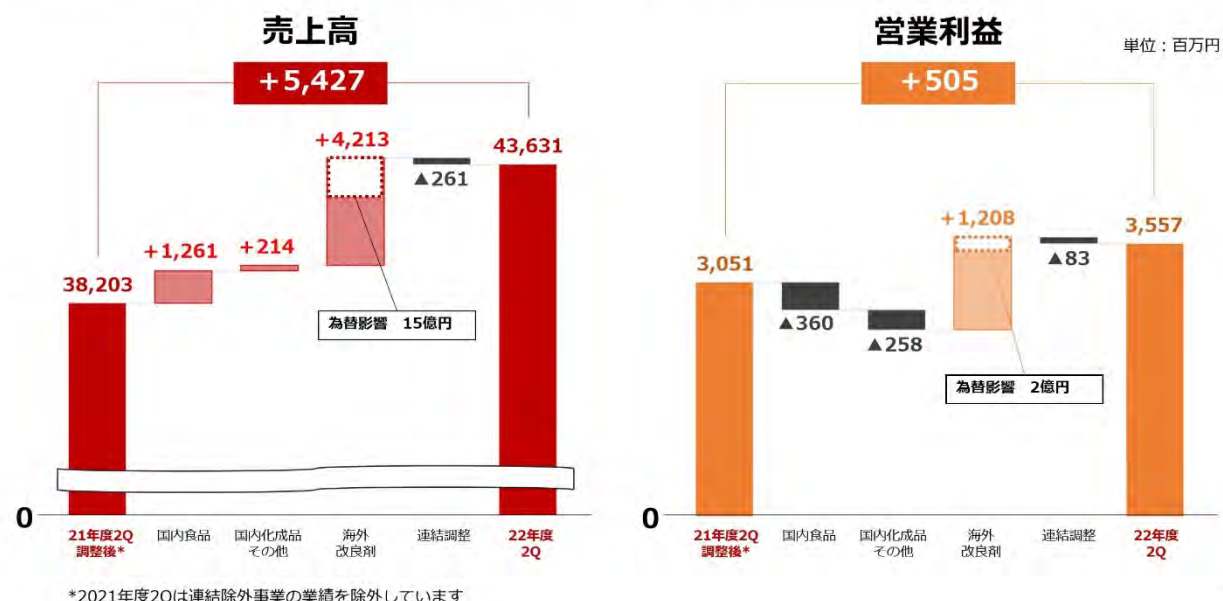
まず、左側は売上高でございますが、価格改定の影響もございまして全体で増収となっております。しかしながら、国内食品事業では、記載のとおり、家庭用食品が減収となっております。これを業務用食品、加工食品用原料等の増収がカバーをし、国内食品全体では増収となりました。また、国内化成品その他事業についても増収となっております。

海外事業は、価格改定が効果的に進みましたこと、また為替の影響もありまして、大幅に増収となっております。記載している増減額プラス38億円のうち、15億円は為替による影響でございます。

右側、営業利益につきご説明をいたします。

国内においては、食品、化成品ともに原材料の高騰をカバーしきれずに昨年度比減益となりました。一方、海外改良剤は、価格改定の成果、また為替の影響もありまして前年度比大幅に増益となり、当社グループ全体の連結決算を増益に導いております。

上期売上高・営業利益のセグメント別増減

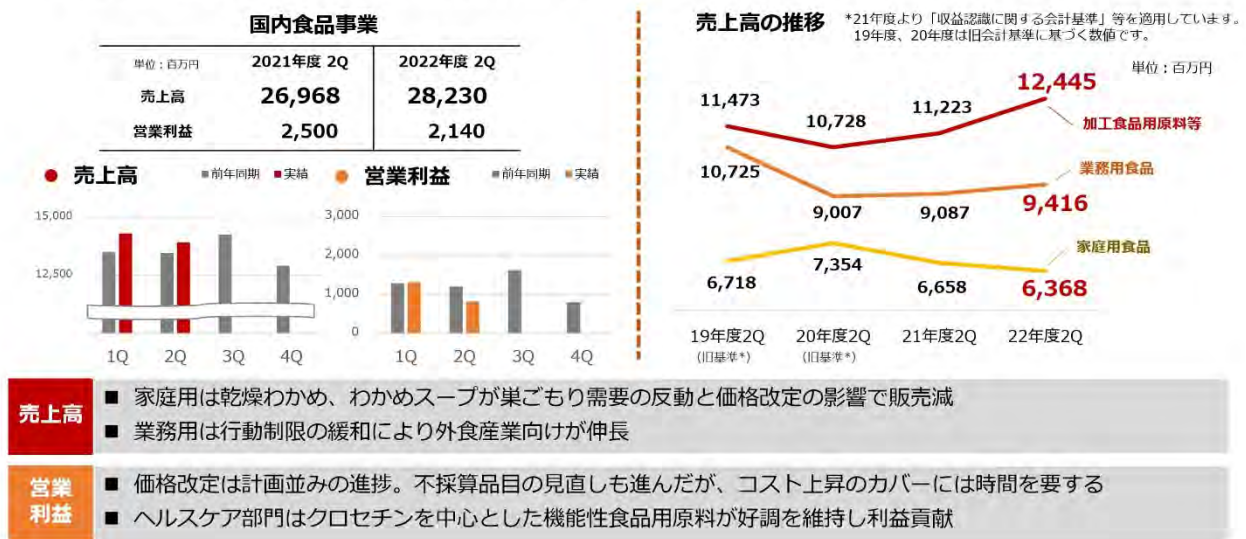


先ほどのページでご説明申し上げました、売上高・営業利益のセグメント別の増減を棒グラフで表しております。

売上高 54 億円は、全セグメントで増収となっております。吹き出しをしておりますが、海外改良剤は 15 億円の為替の影響がございます。

営業利益は 5 億 500 万円の増益ですが、表のとおり、国内食品、国内化成品は、減益となっている一方で、海外改良剤が大きく増益となりまして、全体を 5 億円増益と導いております。

国内食品事業：外食向け需要がやや回復、加工食品用の増収要因は価格改定



セグメント別のポイントをご説明申し上げます。

まず、国内食品事業でございますが、タイトルのとおり外食向け需要がやや回復、加工食品用の増収要因は価格改定でございます。

左上、昨年度との対比表をご覧ください。売上高は増収ながら利益は減益となっております。

右側、売上高の推移で、それぞれ3部門につきご説明申し上げます。

加工食品用原料等は、2020年コロナ禍より回復をきてきておりまして、今年度については価格改定の結果、またヘルスケア事業が非常に好調で124億4,500万円を計上することができました。

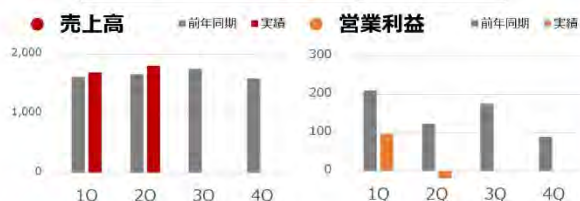
業務用食品は、コロナ禍で大きく2020年度、減収となりましたが、ご存知のとおり外食産業等も回復基調にございましてやや回復となっており、94億円となっております。

一方、家庭用食品は、コロナ禍で巣ごもり需要もあり、2020年度73億円と増収となりましたが、コロナ禍も巣ごもりも一服し、また価格改定の影響もございまして63億円と減収となっております。

国内化成品その他事業：2Qは営業損失 海外事業：大幅な上振れ

国内化成品その他事業

単位：百万円	2021年度 2Q	2022年度 2Q
売上高	3,277	3,492
営業利益	335	77



売上高

- 自動車産業をはじめ、多くの業界で需要低迷
- 食品包装材向けの販売は好調が続く

営業利益

- 価格改定を進めるもコスト上昇分をカバーできず
- 前期の設備投資で減価償却費負担が増加

海外事業 (改良剤)

単位：百万円	2021年度 2Q	2022年度 2Q
売上高	8,562	12,775
営業利益	391	1,599



- 販売数量は減少も、価格改定と円安影響で増収
- エリア別では北米の伸びが顕著

- 価格改定効果が計画を上回り、利益は大幅に上振れ

国内化成品その他事業と海外事業につきご説明を申し上げます。

国内化成品は、表のとおり増収でございますが減益となっております。特にその下、営業利益の棒グラフをご覧ください。第2Qについては、残念ながら営業損失となっています。

その下のコメントについて、売上高は自動車産業をはじめ多くの業界で需要が低迷をしています。自動車産業をはじめ、化粧品、住宅建設関係で需要が下がっております。売上高は、価格改定の影響もあり増収となっておりますが、利益をカバーするには至らなかったということでございます。

また、利益面、下のコメントでございます。化成品の製品を製造しています子会社の設備投資も一部減価償却が膨らんだため、利益を下げております。

右側、海外事業でございます。

表のとおり、大幅に増収増益となっております。このうち為替の影響は、売上で15億円、営業利益面でプラス2億円の影響がございます。販売数量は若干減ってございますが、価格改定と為替の影響で大きく増収となりました。これにより営業利益も大幅に超過達成をしております。エリア別では、北米の伸びが顕著となっております。

四半期純利益の大きな減少は前期連結除外の影響

単位：百万円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	主な増減要因 (カッコ内は前年同期比)
営業利益	2,396	3,557	+1,160	
営業外収益	450	715	+265	為替差益の増加(+265)
営業外費用	328	123	▲205	デリバティブ評価損の剥落(▲114)
経常利益	2,518	4,149	+1,631	
特別利益	12,126	103	▲12,022	関係会社出資金売却益の剥落(▲12,076) 投資有価証券売却益の計上(+93)
特別損失	175	27	▲147	
税引前利益	14,469	4,225	▲10,243	
法人税等	▲2,707	1,077	+3,785	前年同期は連結除外に伴い、法人税等がマイナス計上
非支配株主に帰属する 四半期純利益	14	1	▲12	2021年12月、リケビタ・マレーシアを完全子会社化
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17,162	3,146	▲14,016	

こちらのページでは、営業外損益・特別損益のポイントについて申し上げます。

昨年度 2021 年度は関係会社出資金売却益、青島福生食品を売却したときの 120 億円という大きな特別利益がございました。この結果、四半期純利益については 171 億円と非常に大きな金額を計上しております。

今年度は、このような大きな営業外や特別の損益がございませんでした。そのため、四半期純利益については前年度比マイナス 140 億円と非常に大きな減益となっています。しかしながら、1 段目の営業利益、また 4 段目の経常利益は、表のとおり前年度を上回る結果を残すことができました。

円安の影響で総資産が増加

- 株価変動と一部株式の売却で投資有価証券がやや減少
- 利益剰余金の減少は自己株式の消却によるもの

単位：百万円

流動資産 56,702 (前期末比 +3,911) 現預金 +497 棚卸資産 +2,445 受取手形及び売掛金 +1,216		負債 35,638 (前期末比 ▲482) 支払手形及び買掛金 +652 短期借入金 ▲200 長期借入金 ▲1,309
固定資産 49,223 (前期末比 ▲646) 投資有価証券 ▲381		純資産 70,286 (前期末比 +3,747) 自己株式7百万株の消却を実施 為替換算調整勘定 +1,731
総資産 105,925 [前期末比 +3,264] [(うち為替影響 +2,008)]		自己資本比率 66.3%

連結貸借対照表につきご説明いたします。

左下、総資産は1,059億2,500万円で、前期末比で32億円の増加となっております。そのうち、下にありますとおり為替影響でプラス20億円となっております。

左上、資産を見ていただきますと、やはり原料高騰の影響がございます。棚卸資産、在庫が24億円増えております。また、いわゆる売掛債権についても12億円増加しているということでございます。

一方、右側、純資産の部をご覧ください。まず弊社ではこの5月、700万株の自己株式を消却いたしました。この表には記載はしておりませんが、その結果として、この自己株消却の121億円が、利益剰余金からマイナスされ自己株式がプラスとなっております。純資産におきましては、期間利益そして為替換算調整勘定、また6月の株式の配当を除いた金額が増加され、純資産は702億8,600万円ということで、700億円を超過するに至りました。

また、自己資本比率についても66.3%で、前期末比プラス1.5ポイント上げることができました。

連結キャッシュフロー計算書

 理研ビタミン株式会社

四半期純利益は減少も、営業CFは増加

- 連結除外に伴う支出の剥落などによりFCFは18億円のプラス
- 前年同期は青島福生食品の借入金返済により財務CFの支出が大

単位：百万円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	主な増減要因 (カッコ内は前年同期比)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,478	3,098	+619	貸倒引当金の増減額 (▲507) 法人税等の支払額又は還付額 (+1,239)
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,003	▲1,285	+2,717	有形固定資産の取得による支出 (+716) デリバティブ解約による支出 (+500) 連結の範囲の変更を伴う関係会社出資金の売却による支出 (+445)
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲9,645	▲2,343	+7,302	短期借入金の純増減額 (+9,449)
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,927	15,143	+7,216	

12

最後に連結のキャッシュフロー計算書についてご説明を申し上げます。

まず、四半期純利益については、先ほども申し上げましたとおり、前年度は大きな特別利益があり、大きな減益となっておりますが、実際この利益はキャッシュを伴っておりません。

ですので、今年度、表を見ていただきますと、営業活動によるキャッシュフローについては30億9,800万円と前年度より6億円増加しております。また、投資活動によるキャッシュフローを加えましたフリーキャッシュフローにつきましても、合わせて18億円でこちらについても前年度を大きく増加している次第でございます。

以上、冨取より第2四半期の業績につきご説明をさせていただきました。ありがとうございました。

1. 2022年度第2四半期業績

2. 2022年度通期の見通し

山木：社長の山木でございます。それでは、私より通期の見通しについてご説明申し上げたいと思います。

**持続可能な社会を
スペシャリティな製品とサービスで支え
成長する会社になる**

2022-24年度中計 基本方針

経営基盤（ガバナンス）の強化

アジア・北米での展開を加速

国内の深掘りと新領域への挑戦

サステナブル経営の推進

社内への浸透

社長による説明会（5/13、オンライン）

社内報での周知

事業所での意見交換会



まず、5月に公表した中長期ビジョンと中計の基本方針を、あらためてお示しします。

当社が中長期で成長するために、現在進行中の中計では「ガバナンスの強化」「アジア・北米での展開を加速」「国内の深掘りと新領域への挑戦」「サステナブル経営の推進」という四つの柱を掲げております。

中計方針の浸透のために、オンラインを活用した全従業員向けの説明会や、自由な意見交換会を行っております。全従業員が中長期の目指すべき姿を共有し、共感して進むことが重要であると認識しておりますので、中計基本方針の浸透と活発な議論を今後も社内で行っていくつもりでございます。

通期予想は据え置き

- ・ 下期は市場環境が厳しさを増すと予想し、通期の連結業績予想は据え置く
- ・ 上期の状況を踏まえ、セグメント内訳は修正

国内は価格改定を継続

- ・ 価格改定と不採算品の見直しを継続するが、コストアップ分のカバーは難しい見込み
- ・ 市場や取引先の変化を見逃さず、既存領域に留まらない提案を強化する

海外は揺り戻しを懸念

- ・ 海外事業の上期は、コモディティ品の値上げによる一時的な要因が大きい
- ・ 原料相場の低下や海外の景気悪化など、上期と異なる市場環境に対応していく

さて、通期見通しのポイントをこちらにまとめてございます。

上期の業績は海外事業の好調により予想を大きく上回りましたが、通期の連結業績予想は前回予想を据え置いております。ただし、第2四半期の状況を踏まえセグメントの内訳は一部修正いたしました。

国内では、円安の影響もあり多くの原料価格が高止まりする見込みであり、また、エネルギー費のコスト上昇が続くことも予想されます。下期も価格改定と不採算品目の見直しを継続して行っています。価格改定効果はタイムラグが発生しますので、今期全てをカバーすることは難しい見込みでございます。

しかし、環境変化は逆に見れば、当社の得意とするソリューション提案の出番でもあります。市場や取引先の変化を見逃さず、新たな付加価値提案を積極的に推進していきたいと考えております。

また、海外事業については、上期好調だったわけですが、下期は油脂相場下落、また中国の景気停滞など事業環境が大きく変わっております。地域ごとにきめ細かく環境の変化に対応していきたいと考えております。

8月10日発表の予想を据え置き

- コスト上昇の影響は当初予想を上回る
- ゼロコロナ政策を継続する中国市場を中心に、海外事業は苦戦
- 為替前提は1ドル＝116円から135円に変更

単位：百万円	2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	79,231	86,000	+6,768	+8.5%
営業利益	5,840	5,700	▲140	▲2.4%
経常利益	6,182	6,100	▲82	▲1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21,582	4,700	▲16,882	▲78.2%
ROE	38.3%	6.8%		

こちらのページは通期の業績予想です。

売上高 860 億円、営業利益 57 億円、当期純利益 47 億円を見込んでおります。なお、為替の前提
は期初では 1 ドル 116 円としておりましたが、135 円に変更しております。

2022年度 セグメント別業績予想

国内は増収減益、海外営業利益は過去最高見込

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比		2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
国内食品事業	54,130	56,000	+1,869	+3.5%	4,938 9.1%	3,920 7.0%	▲1,018 ▲2.1pt	▲20.6%
家庭用食品	12,928	12,350	▲578	▲4.5%				
業務用食品	18,196	18,800	+603	+3.3%				
加工食品用原料等	23,005	24,850	+1,844	+8.0%				
国内化成品その他事業	6,617	7,000	+382	+5.8%	602 9.1%	330 4.7%	▲272 ▲4.4pt	▲45.2%
海外事業	19,926	24,800	+4,873	+24.5%	705 3.5%	1,900 7.7%	+1,194 +4.2pt	+169.4%
海外改良剤	19,527	24,800	+5,272	+27.0%	1,360	1,900	+539	+39.7%
青島福生食品*	399	-	-	-	▲654	-	-	-

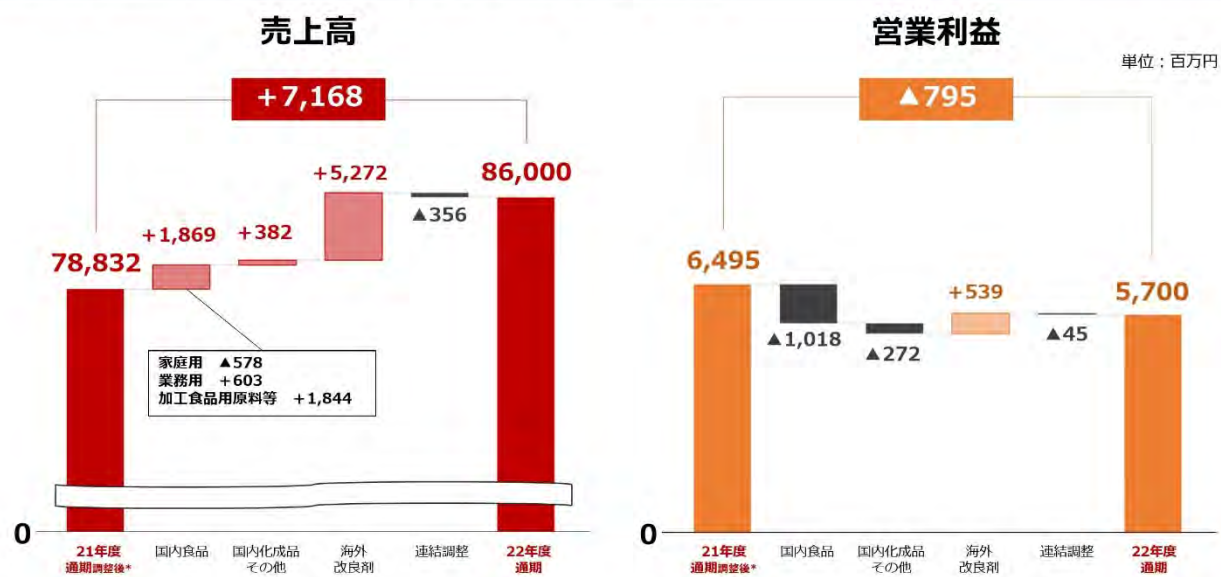
通期のセグメント別業績予想になります。

国内食品事業と、国内化成品その他事業は、価格改定により増収になるもののコストアップを全てカバーするにはタイムラグが発生しますため、減益を見込んでおります。

海外は下期には伸び率が鈍化する見込みでございますが、通期でも増収増益を達成し海外事業の営業利益としては過去最高を見込んでおります。

通期売上高・営業利益のセグメント別増減

理研ビタミン株式会社



18

セグメント別の売上と、営業利益の増減をまとめたグラフになります。

今期は海外に頼りますが、来期以降の利益回復に向けて国内の価格改定をしっかりと実行してまいりたいと思っております。

価格改定に注力しながら、既存領域に留まらない提案を強化

家庭用

新カテゴリ創出と既存品の需要拡大

- 新商品「ふりかけるザクザクわかめ」「オートミールスープ」の拡販
- 「素材力だし®」の8年ぶりのTVCMによる需要喚起 ⇒ P21



▲オートミールスープ

業務用

食品・改良剤・ヘルスケアを持つ強みを活かす

- 老健市場・中食市場への提案強化
- 国内大手メーカーの再開拓と深掘り ⇒ P25



▲業務用 まぜそばのたれ

加工食品用原料等

- 変化する課題・ニーズに対応した提案で価格改定によるマイナスをカバー
- 好調が続くビタミン・機能性食品用原料の販売に注力 ⇒ P23

価格改定や
不採算製品の
見直しを
引き続き進める

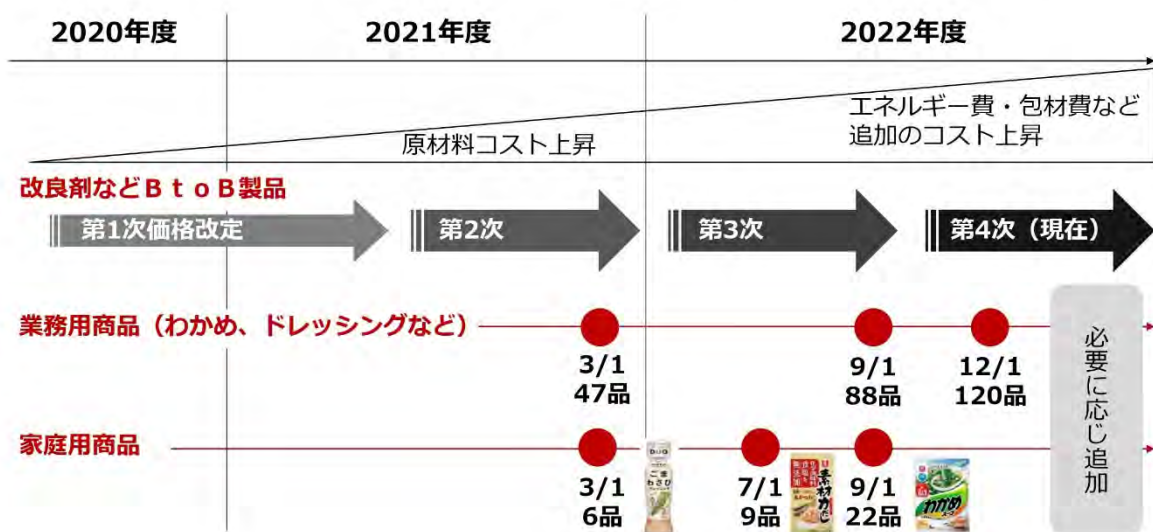
国内食品事業のポイントをご説明いたします。

家庭用は上期に、素材力だしやわかめ製品の価格改定を行いました。巣ごもりの反動と生活防衛意識の高まりから、スーパーでの買い上げの点数は落ちており、家庭用は減収になる見込みでございます。しかし一方、新商品で、発売後大変好調な商品もございますので、この点に関しては期待しております。

業務用と加工食品用原料等は、特に加工食品メーカー向けおよびコンビニエンスストア向けに当社の幅広い商品群を提案し、成果が出てきております。

食品・改良剤・ヘルスケアのそれぞれの製品を持つことは、当社の大きな強みとなっております。既存領域にとどまらない製品提案で、国内市場をさらに深掘りしてまいりたいと思っております。

急激なコスト上昇に合わせ、下期も追加の価格改定を実施



20

こちらのページでは国内食品事業の価格改定の推移を示しました。

改良剤は原材料コストの上昇にあわせ、2020年度から価格改定を実施しており、現在は第4次の改定を推進しております。家庭用商品と業務用商品は、価格改定の品目数が増えてきております。今後も必要に応じて追加の価格改定を行うか検討してまいります。

スペシャリティを活かした商品展開

新商品

「ふりかけるザクザクわかめ 韓国風ごま油風味」

- 原料調達に強みのあるわかめを活用
- 物価高の中でも比較的価格が安定している米飯関連市場にアプローチ
- 日経トレンド誌「2023ヒット予測100」選出



参考小売価格：330円/袋（税抜）
当初販売計画：7千万円/年



既存商品

「素材力だし®」シリーズ TVCM放映

（放映期間：10/22～11/6）

- 食塩無添加で独自性の高い顆粒だしの素
- ユーザーの評価は高いが知名度が低く今後の伸びしろが大きい
- 子育て世代をターゲットに販促企画も実施



ここで家庭用の下期施策について、2点ご説明したいと思います。

家庭用の新商品、「ふりかけるザクザクわかめ」でございますが、こちらは比較的価格が安定している米飯市場をターゲットにした商品でございます。発売前の商談で大変評判が良く当初見込みを大きく超えたために、発売を1カ月ほどずらすことになってしまいました。しかし、現在既に当初の年間見込みを超えた売上になっており、今後も伸びると予想されております。このように、今後も当社の強みを生かした、市場のニーズに合った商品を開発していきたいと思っております。

既存商品については、「素材力だし」シリーズの拡販に注力したいと思っております。本シリーズの最大の特徴は、食塩無添加であることです。発売後20年以上経過しておりますが、商品コンセプトにおいて他社と明確な区別ができており、リピーターのお客様が多く安定した売上を誇っております。ただし、認知度がまだまだ低いと思っており、この秋に8年ぶりとなるテレビCMを行いました。この商品はまだまだ伸ばせると思っております。

マイクロカプセルがポテトチップスに初採用

- ヘルスケア部門の加工技術を、食品部門のシーズニングに応用
- 「成分を閉じ込めて、狙った条件で放出する」マイクロカプセルの性質が時間差で肉の味わいがおしよせてくるようなおいしさの表現に寄与
- 今後も部門を超えた提案機会を模索

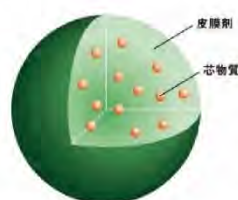
■ 採用商品



カルビー「スーパーポテト おしよせるガーリックステーキ味」
(左から70g、56g) ※2022年10月発売

■ マイクロカプセルとは

<イメージ図>



- ・ 不安定なビタミンAを安定化させる目的で開発した技術
- ・ 現在は主に医薬品や健康食品の有効成分の安定化、不快味のマスキング、徐放性の付与等に活用
- ・ 食品分野では香料の揮発防止等の目的でガム、タブレット菓子等への採用実績あり

※実物の直径は1mm未満

次に、既存領域にとどまらない提案の事例について、ご紹介したいと思います。

当社のヘルスケア部門が、医薬向けに使っているマイクロカプセル化の技術が、この度初めてポテトチップスのシーズニング（調味料）に採用されました。マイクロカプセルは「成分を閉じ込めて、狙った条件で放出する」という特性を持っております。この性質を応用することで、ポテトチップスの味が時間差で感じられるような表現が可能になることが、採用された決め手となりました。

当社は食品事業、改良剤事業、ヘルスケア事業という異なる事業を持っておりますが、それぞれの分野で培ったスペシャルな技術を他の分野で展開することで、全く新しい価値を創造できると思っております。その一例が、このマイクロカプセル化技術を応用したポテトチップス向けシーズニングになります。

生産体制を強化し、好調分野の拡大を狙う



ビタミン製品

- フィットネスブーム、健康志向の影響でプロテインや完全栄養食への採用が増加
- 社名にもあるビタミンの製剤化技術に強み
- ビタミンミックス生産設備増強を予定（中期経営計画に織込済み）



Crovit®

クチナシ由来成分「クロセチン」

(商品名：クロビット)

- 共働き、在宅勤務の増加で「睡眠」「疲労」「アイケア」等のニーズが増加
- 2021年度以降、計画を大幅に上回る売上
- 増産体制の構築を検討中

クロセチン

- ・ クチナシ果実に含まれる色素成分
- ・ 良質な眠りと目のピント調節をサポート
- ・ 機能性表示食品の機能性関与成分として届出済



続いて、好調なヘルスケア分野についてご説明したいと思います。

まず、ビタミン関係の製品については、プロテインにビタミンを添加して栄養バランスを整えた健康飲料のような商品が市場で増えております。また、完全栄養食への関心も高まっております。当社はビタミンEのシェアが高いというほかに、ビタミンミックスの生産技術に強みを持っております。ビタミンミックスは安定的に利益を生み出せる分野と考えておりますので、今中計中にこのビタミンミックスの生産設備増強を織り込んでおります。

また、クチナシの実から抽出するクロセチンが大変好調に推移しております。2018年に「睡眠&アイケア」のエビデンスを取得して大きく伸長し、現在では多くのサプリメントに採用されております。今後の拡大を見込んで増産体制の構築を検討しているところであります。

ヘルスケアは、売上規模はさほど大きくはございませんが、差別化された製品による高い利益率が期待できますので、今後とも経営資源を投下する価値のある分野だと思っております。

国内化成品：既存分野の価格改定を急ぎ、環境対応製品にシフトしていく 海外：上期と異なる市場環境に対応

国内 化成品 その他

- 3Qは価格改定に注力、早期の黒字回復を図る
- 化粧品向け新商品の投入
- バイオマスプラや生分解性プラ向け改良剤の提案を継続

バイオサイザー



海外 改良剤

市場環境の変化

原料相場下落
中国の需要低迷、価格競争激化
東南アジアでは国ごとに景況感に差
米国も景気の先行きに不安

- 地域ごとの取り組みによる利益確保 ⇒ P25
- グループの開発・営業が連携し、スペシャリティ品の提案を推進

シンガポール
APセンター

日本
A&Iセンター



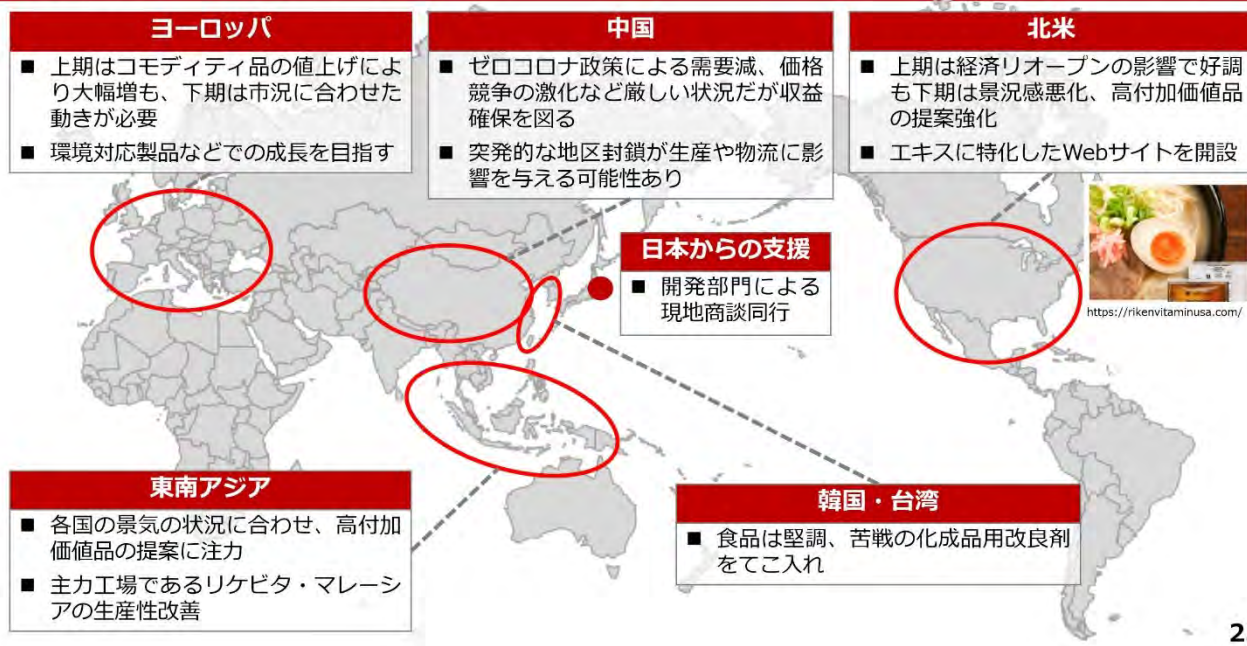
次に、国内化成品その他事業と海外事業のポイントをご説明したいと思います。

国内化成品とその他事業については、不採算品の整理を強く進めておりまして、来期以降の巻き返しに向けた構造改革中でございます。下期には上期に妥結した価格改定の反映などにより、営業利益率は回復していくと見込んでおります。

海外事業は、非常に好調だった上期から事業環境が大きく変化しております。地域ごとに事情が異なるため、地域に合った提案で利益確保を狙ってまいります。また、日本から出張がやっと可能になってきましたので、これまでなかなかできなかった技術者とお客様の直接的なコミュニケーションによって、当社の目指すべきスペシャリティ品の提案を拡大していきたいと思っております。

海外事業 エリア別取り組み

 理研ビタミン株式会社



25

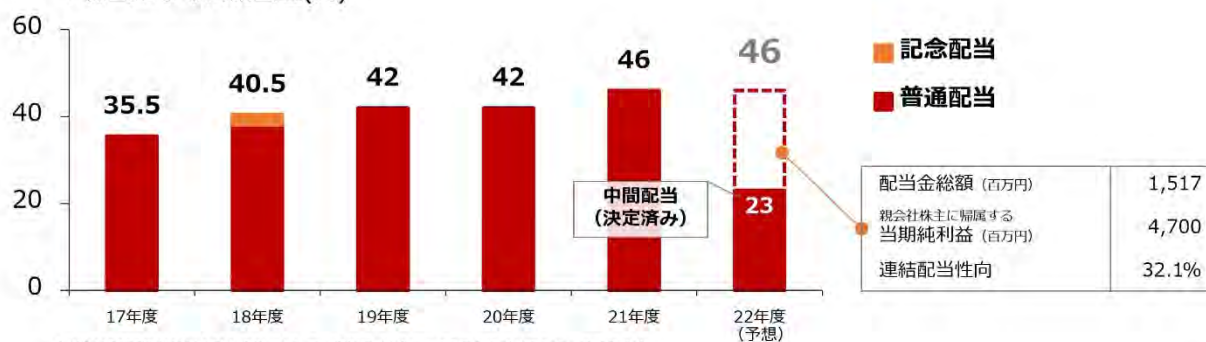
当社海外事業では、主にマレーシア、そして天津、それに日本の工場で製造した改良剤を世界各地に販売しております。また、北米ではパークエキスの工場を持っておりまして、主にアメリカ国内のレストランにラーメンスープの原料をガラスープとして販売しております。

下期の市場環境は厳しいわけですが、海外事業は中長期の成長ドライバーとして、さらに注力してまいりたいと思っております。

<配当方針>

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題の一つと考えており、当社の経営環境、業績、財務状況、株主還元性向、経営基盤強化のための内部留保等を総合的に勘案しながら、**連結配当性向30%以上**を目安に安定的な配当を継続して実施していくことを基本方針といたします。

1株当たり年間配当金(円)



*当社は2020年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。
上記グラフ中の1株当たり年間配当金は、株式分割後の水準で記載しています。

配当について、ご報告いたします。

今期より配当方針を変更し、配当性向 30%以上を目安に配当を行うことを明確化しました。この配当方針に基づき、期初に発表した年間 46 円の配当予想については、現時点では変更しておりません。

政策保有株式の縮減

- ・ 上期に5銘柄を売却、引き続き縮減を進める

TCFD

- ・ 4月にTCFD提言に賛同、CSRレポート2022にて初の開示
https://www.rikenvitamin.jp/csr/library/report/pdf/rikenvitamin_csr_2022_CUD.pdf

GHG排出量の削減

- ・ 2030年40%減目標（Scope1,2 2018年度比）に向け、太陽光発電の導入やグリーン電力の購入開始

環境負荷低減

- ・ 容器包装の環境対応について、社内横断プロジェクトを開始予定

最後に、ESG についてポイントをこちらのページにまとめてございます。

政策保有株式は上期 5 銘柄を売却いたしました。中計方針に基づいて今後も縮減を進めてまいりたいと思っております。

サステナビリティに関しては、昨年 11 月に設置したサステナビリティ委員会を中心に、こちらに掲げております取り組みを進めてまいりたいと思っております。

短期的視点では、コストアップを打ち返すための価格改定が現在では最大の施策になりますが、中長期での視点においては、原材料価格に左右されないスペシャリティな製品とサービスをさらに磨いてまいりたいと思っております。

**持続可能な社会を
スペシャリティな製品とサービスで支え
成長する会社になる**



理研ビタミン株式会社

これで、私の説明を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。
 それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
 当社が計画・予測したものです。
 実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる場合があります。
 この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

経営企画部 広報・IR室 井上・清水

T E L : 03-5362-1315

補足資料

中期経営計画 業績目標数値

(百万円)		2021年度実績			2022年度			2023年度目標	2024年度目標
		上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想	通期	通期
売上高	国内食品事業計	26,968	27,161	54,130	28,230	27,769	56,000	59,300	61,000
	家庭用食品	6,658	6,270	12,928	6,388	5,981	12,350	13,700	14,300
	業務用食品	9,087	9,108	18,195	9,416	9,383	18,800	20,000	20,700
	加工食品用原料等	11,223	11,782	23,005	12,445	12,404	24,850	25,600	26,000
	国内化成品その他事業	3,277	3,340	6,617	3,492	3,507	7,000	8,000	8,500
	海外事業計	8,952	10,954	19,926	12,775	12,024	24,800	23,800	25,800
	海外改良前 (青島産主食品)	8,562	10,954	19,527					
		399		399					
	調整額(セグメント間消去)	▲ 605	▲ 837	▲ 1,443	▲ 867	▲ 934	▲ 1,800	▲ 1,100	▲ 1,300
	連結合計	38,603	40,628	79,231	42,631	42,368	86,000	90,000	94,000
営業利益	国内食品事業	2,500	2,437	4,938	2,140	1,779	3,920	5,400	6,200
	国内化成品その他事業	335	266	602	77	252	330	700	800
	海外事業	▲ 263	958	705	1,589	300	1,900	1,000	1,400
	海外改良前 (青島産主食品)	391	958	1,350					
		▲ 654	-	▲ 654					
	調整額(セグメント間消去)	▲ 176	▲ 226	▲ 404	▲ 260	▲ 191	▲ 450	▲ 400	▲ 400
	連結合計	2,396	3,444	5,840	3,557	2,142	5,700	6,700	8,000
経常利益		2,518	3,664	6,182	4,149	1,950	6,100	6,900	8,200
親会社株主に帰属する当期純利益		17,162	4,419	21,582	3,146	1,551	4,700	5,300	6,500
ROE				38.3%			6.8%	7.5%	8%以上

連結業績推移

理研ビタミン株式会社

(百万円)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 予想
売上高	77,568	85,419	85,603	88,072	87,181	89,515	89,024	82,974	77,722	79,231	86,000
前期比増減率	2.9%	10.1%	0.2%	2.9%	▲1.0%	2.7%	▲0.5%	▲6.8%	▲6.3%	1.9%	8.5%
営業利益	3,600	5,027	4,610	6,007	6,820	5,424	4,580	5,307	1,367	5,840	5,700
前期比増減率	40.3%	39.6%	▲8.3%	30.3%	13.5%	▲20.5%	▲15.6%	15.9%	▲74.2%	327.2%	▲2.4%
売上高営業利益率	4.6%	5.9%	5.4%	6.8%	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	1.8%	7.4%	6.6%
経常利益	3,741	5,294	4,645	5,321	6,248	4,587	4,388	5,045	1,652	6,182	6,100
売上高経常利益率	4.8%	6.2%	5.4%	6.0%	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.1%	7.8%	7.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,406	3,590	3,755	4,107	4,089	4,800	2,623	▲8,933	▲1,618	21,582	4,700
売上高当期純利益率	3.1%	4.2%	4.4%	4.7%	4.7%	5.4%	2.9%	—	—	27.2%	5.5%
経費差額	94,257	102,345	114,049	109,030	109,342	110,994	109,706	101,853	106,535	102,660	
純資産額	60,728	67,253	76,036	74,341	53,611	58,919	59,229	46,789	46,674	66,539	
自己資本比率	63.9%	65.1%	66.1%	67.7%	48.5%	52.7%	53.5%	45.5%	43.3%	64.8%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,064	6,908	5,941	8,377	8,126	5,753	6,689	5,850	7,660	6,823	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲5,697	▲3,578	▲5,690	▲6,389	▲3,080	▲1,617	▲3,388	▲4,282	▲2,322	▲3,661	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,334	▲861	▲1,222	▲3,140	▲1,881	▲5,869	▲2,490	▲3,051	▲180	▲7,565	
ROE	4.1%	5.7%	5.3%	5.5%	6.4%	6.6%	4.5%	▲17.0%	▲3.5%	38.3%	6.8%

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

32

セグメント別四半期業績推移

理研ビタミン株式会社

(百万円)		2020年度				2021年度				2022年度		2022年度 通期予想
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	国内食品事業計	13,498	13,592	14,480	12,942	13,503	13,465	14,255	12,905	14,303	13,927	56,000
	家庭用食品	3,992	3,361	3,422	3,233	3,419	3,239	3,145	3,124	3,264	3,104	12,350
	業務用食品	4,299	4,708	5,091	4,488	4,559	4,528	4,822	4,285	4,858	4,558	18,800
	加工食品用原料等	5,206	5,522	5,966	5,221	5,524	5,698	6,297	5,495	6,180	6,264	24,850
	国内化成品その他事業	1,460	1,495	1,700	1,547	1,616	1,661	1,750	1,589	1,690	1,802	7,000
	海外事業計	3,914	4,709	5,384	4,541	4,659	4,302	5,485	5,479	5,987	6,788	24,800
	海外改良剤	3,049	3,698	3,907	3,975	4,260	4,302	5,485	5,479	5,987	6,788	24,800
	(青島福生食品**)	864	1,011	1,477	565	899	—	—	—	—	—	—
	調整額 (セグメント間消去)	▲416	▲294	▲421	▲415	▲278	▲327	▲507	▲329	▲411	▲455	▲1,800
	連結合計	18,457	19,502	21,145	18,617	19,500	19,102	20,983	19,644	21,569	22,061	86,000
営業利益	国内食品事業	1,286	890	1,424	1,076	1,291	1,209	1,627	810	1,312	827	3,920
	国内化成品その他事業	167	61	164	147	211	124	176	89	97	▲20	330
	海外事業	▲1,881	▲525	▲324	▲572	▲421	158	468	500	711	888	1,900
	海外改良剤	76	178	175	65	232	158	468	500	711	888	1,900
	(青島福生食品**)	▲1,957	▲703	▲500	▲537	▲654	—	—	—	—	—	—
	調整額 (セグメント間消去)	▲295	▲199	▲19	▲34	▲71	▲105	▲119	▲109	▲98	▲161	▲450
	連結合計	▲722	227	1,245	617	1,009	1,386	2,153	1,290	2,023	1,533	5,700

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

**青島福生食品は2021年6月に持分譲渡し、連結から除外しました

33